

1 学校経営の基本理念

学校経営とは、児童一人ひとりの豊かな学びと育ちを保障するため、適切な学校教育目標を設定し、最も有効な手段で学校運営を行うことである。（物的・人的経営資源の有効活用）

その学校教育目標の達成度を高めるためには、児童の教育指導に当たる全ての者が、その個性を生かし、協働しながら共通理解・共通実践することが重要である。

つまり、相互理解による協働性の構築・目標や感動の共有化・共通実践について、教職員一人ひとりが、より柔軟な思考と前向きな姿勢で取り組むとともに、その力を結集する必要がある。

このような認識に立ち、次の基本理念に基づいて学校経営に当たる。

- (1) 児童があり、学校があり、教職員がある。
- (2) 児童は、未来に生きるかけがえのない存在である。
- (3) 教職は、感動職である。教師が伸びれば子どもが伸びる。
- (4) 学校は、安心・安全な場でなければならない。
- (5) 本校教育は、校訓「至誠」の体現にある。

2 教育方針

将来を担う国民を育成するという使命感に立ち、教育基本法並びに長崎県及び五島市の教育方針に則り、福江小学校の建学の精神「至誠のかじをひとすじに、一日一日を励みなん」とする「知性」と「誠の心」を継承し、清潔で気品のある校風を樹立する。さらには、郷土を愛し、心身ともに健康で人間性豊かな児童、また、国際社会に貢献できる主体的で実践力旺盛な児童の育成に努める。

そのために、我々教職員は深い教育愛と実践力をもつとともに、教育公務員としての責務を強く自覚し、信用を失墜させることなく、日々の教育活動をとおして本校教育の充実・発展に努める。

至誠

「至誠」ということばは、本校校歌の一節にあり、約80年もの長きに渡って親しまれてきた。これからも常に、福江小の子どもたちの心の指針となることを願い、校訓として掲げている。

- ① 学校の歴史を重んじ、校訓「至誠」の体現化を目指す。
- ② 一人ひとりを大切にす教育を推進する。
- ③ 必要なことは確実に記録に残す(児童記録、指導記録、評価、引継ぎ、説明責任)。
- ④ 種々の取組にPDCAサイクルで成果を検証する。
- ⑤ 学校経営への参画意識をもって課題解決に向けた責任ある校務分掌運営をする。
- ⑥ 指導の統一性と一貫性を図る。
- ⑦ 報告・連絡・相談を徹底する。
- ⑧ 凡事徹底(教職員も、児童も)で取り組む。
- ⑨ 研修・会議の意思確認・意思統一の後、実践と反省を確実に行う。
- ⑩ 家庭・地域、鶴南分校等との連携を推進する。

3 学校教育目標

「至誠」の精神で真心をもって行動できる児童の育成

めざす教師像	めざす児童像	めざす学校像
<ul style="list-style-type: none"> ○子どもを愛し、教育に情熱を注ぐ教師 ○研修に努め、指導力を高め合う教師 ○明るく健康で、協働的実践力のある教師 	<ul style="list-style-type: none"> ○よく考え進んで学び合う子ども(知) ○豊かな心で助け合う子ども(情) ○強い心でやりぬく子ども(意) ○体をきたえるたくましい子ども(体) 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域に信頼される学校 ○チーム力があり、働きがいのある学校 ○安心・安全で美しい学校

福江小学校至誠の誓い	具現化した姿
1 進んであいさつをします	<ul style="list-style-type: none"> ・校門でワンストップあいさつをする。 ・気持ちよいあいさつ(笑顔で 目を見て)をする。
2 学校やふるさとを大切にします	<ul style="list-style-type: none"> ・時間いっぱい隅々まで掃除をする。 ・公園や町をきれいに大切に使う。
3 いじめや差別をなくします	<ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ言葉を使う。 ・だれとでも仲良く活動する。
4 決まりごとは守ります	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻を守って行動する。 ・廊下を「はさみ歩き」する。
5 夢やあこがれに向かって努力します	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで学習に取り組む。 ・自分の目標に向かって努力する。

福江小学校児童に育てたい資質能力		育てる場の例	
学ぶ力	○当該学年の学習内容を習得できる力	【基礎学力】	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導・家庭学習 ・スキルタイム・自主学習
	○学んだことを他教科や生活に生かすことができる力	【思考力】	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導・家庭生活 ・総合的な学習の時間
	○自分のことばで、考えを伝えることができる力	【表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導・集会活動 ・学校行事・短学活
豊かな心	○自分を大切にするとともに、相手を思いやる心	【自尊感情】	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動・交流活動 ・学級活動・人権集会
	○きまりを守り、正しいことを貫く心	【正義感】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活・登下校 ・昼休み・放課後
	○学校やふるさとをほこりに思う心	【郷土愛】	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習 ・開校記念行事・地域行事
自主的 態度	○目標に向かって、粘り強く取り組む態度	【挑戦心】	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導・夢 ・あこがれ・体育・キャリア教育
	○みんなのために進んで行動する態度	【積極性】	<ul style="list-style-type: none"> ・係、委員会、当番、奉仕活動等
	○人と積極的に関わる態度	【協調性】	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動・休み時間 ・地域行事・わくわくタイム
	○課せられた課題をやり遂げる態度	【責任感】	<ul style="list-style-type: none"> ・係、委員会、当番活動、家庭学習

4 学校経営方針

学校は、教育目標達成をめざす組織体であり、私たち教職員は学校本来の役割を自覚し、不易と流行を見極め、理想の実現に邁進していかねばならない。そこで、全職員の英知を結集し、融和を図りながら職員一体となった活力ある学校経営・学校運営を推進する。また、すべての教職員の資質向上をめざす観点から、協働性を重視した同僚間の教え合いや先輩教職員による後輩教職員の指導などのOJTを推進する。

5 重点努力目標（1学期）

- (1) **明るく元気なあいさつと適切な言葉遣いの実践** ※森信三：躰の三原則①
 - ・あいさつの意義とあいさつの仕方の指導（校門、学級、教員、来校者、地域）
 - ・ふわふわ言葉、安心して話せる環境づくり
- (2) **学習規律の確実な定着**
 - ・学習の準備をして休み時間とする。（できていることの確認と称賛・賞賛）
 - ・始めと終わりのあいさつをする。
 - ・話し方・聞き方（発達段階に応じて）、返事を定着させる。 ※森信三：躰の三原則②
 - ・福江小学校「学習の約束」を徹底する。

6 努力目標

- (1) **学習内容の確実な定着**
 - ① 児童に課題意識と見通しをもたせ、主体的な活動を通して課題解決を図るような授業を展開する。学力向上のための3つの提案（県、五島市）
 - ・めあて（課題）が明確化され、確実にまとめと連動する授業
 - ・めあての質についての検討
 - ② 授業に言語活動を位置づけ、個人や小集団、学級全体での学習活動を通して、主体的・対話的な学びを充実させる。
 - ③ 個に応じた支援、指導と評価の一体化を図り、学習内容の確実な定着を図る。
 - ④ ICT機器の有効活用を図り、授業改善に生かす。
 - ⑤ Fタイムの効果的な活用を推進する。
 - ⑥ 学びに向かう学習の習慣化を図る。
 - ⑦ 各種学力検査を分析し、課題改善を行う。
- (2) **豊かな心の醸成**
 - ① 道徳科の授業を要として、各内容項目に関わる道徳的実践の指導の充実を図る。
 - ② 心豊かに、真心を込めて行動する児童を育成する。
 - ・「至誠の誓い」の実践
 - ・言葉遣い ※時と場に応じたもの
 - ・はきものを揃え（靴箱の踵揃え、トイレのスリッパ並べ） ※森信三：躰の三原則③
 - ・もくもくそうじの実践
 - ③ 人権・共生意識を高める。（自己肯定感や自尊感情の育成、鶴南分校との交流）
 - ④ 道徳教育を効果的に推進するために、授業を積極的に公開するとともに、家庭・地域と連携を深めた取組の充実を図る。
 - ⑤ 読書活動を充実させ、読書に親しむ習慣の定着を図る。

(3) 体力の向上と健康教育の推進

- ① 新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、健康観察を徹底するとともに、必要に応じて情報共有し、対応に当たる。
- ② 体育科の授業、体力づくりのための活動及び体育的行事の工夫を図る。
- ③ 日々の保健指導を通して、健康な生活習慣を身に付けさせる。(手洗い、うがいの徹底)
- ④ 外遊びを奨励する。
- ⑤ 学校保健委員会、関係機関との連携を図り、保健教育の充実を図る。
- ⑥ 食育・給食指導を充実する。また、食物アレルギーをもつ児童が学校給食の時間を楽しく、安心して過ごせるようにする。

(4) 特別支援教育の充実

- ① 児童一人ひとりの教育的ニーズや能力に応じた個別指導の工夫と支援に努める。
- ② 共に学び、活動できる交流学习の積極的な推進と協力的な指導体制づくりに努める。
- ③ 担任と特別支援学級担任、通級担任の連携を深め、児童の指導に生かす。
- ④ 校内就学支援委員会を中心として支援体制を整え、保護者や医療等関係機関と連携して支援の充実を図る。

(5) 生徒指導の充実

- ① 生命尊重の意識を高め、安全指導の徹底を図る。
- ② いじめ根絶に努める。
- ③ 全教職員が一貫した姿勢で、規律正しい生活態度、善悪を正しく判断して行動する力、望ましい人間関係などの育成に努める。
- ④ 情報共有や積極的生徒指導、教育相談を充実させることによって、児童や保護者の抱える不安や悩みの解消・改善に努める。

(6) 特別活動の充実

- ① 達成感のある学校行事や活動等を推進し、自主性や責任感、実践的な態度を育てる。
- ② 児童一人ひとりが認められ、よさが発揮できるよう、教員と児童、児童相互の人間関係を深める活動を充実させ、学級・学校の好ましい雰囲気醸成する。

(7) キャリア教育の充実

- ① 自己肯定感・有用感の育成、積極的に他者へ関わる態度の育成
- ② 身のまわりの仕事や環境への興味・関心・意欲の向上
- ③ 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- ④ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

(8) 開かれた学校づくり

- ① 各種たより等による学校教育活動についての情報発信
- ② 愛育会行事や地域行事への協力や参加
- ③ 地域の人材活用と地域教材の開発
- ④ 関係機関との連携
- ⑤ 幼保小、小中の双方向的連携
- ⑥ 学校評価や心の教育推進委員会を生かした教育活動の充実

7 努力目標達成のために

- ① 教職員が一丸となって、研修に取り組み、研究授業・授業研究を通して、組織的な授業力の向上を図る。
- ② 一学年が複数学級という本校の特性を生かし、教育目標及び重点努力目標等の達成に向けて、協働的に共通理解・共通実践するとともに、指導力や人間性などの資質や能力の向上につなげる。
- ③ 県や市等が実施する研修や学校が行う研究発表会に積極的に参加するとともに、教職員自らも研修に励み、成果を還元する。
- ④ 学級は、学校教育目標具現化の最たる場であるという認識のもと、具現化の充実を図る。

8 鶴南分校との交流について

(1) 目的

同一敷地、同一校舎に併設している利点を活かし、特別支援教育の充実を図るとともに、職員間の協力体制を築く。

(2) 基本的な考え方

- ◎ 同じ敷地の中に、それぞれに目的をもった2つの学校が存在する。
- ◎ 同じ敷地の中に、2つの役割が存在する。
 - ① 双方の子ども達同士の心の垣根をとり除き、親近感をもたせる。
 - ② 子ども達が、様々な障害の実態を知り、そのことを理解しながら接する態度を養う。
 - ③ 様々な体験的活動や学習をともにすることで、人間関係を広める場とする。
 - ④ 双方の教職員の研修の一環とする。
 - ⑤ 福江小職員と鶴南分校職員が協働意識を持ち、働きやすい職場環境をつくる。

(3) 子どもの交流について

① 学年・学級単位の交流	・授業を通しての交流・交流給食・昼休みの交流遊び
② 全体での交流	・学校行事（遠足・運動会・避難訓練 等） ・集会活動（平和集会・お別れ集会 等）

(4) 職員間の交流について

- ① 特別支援教育学習会
- ② その他の交流

(5) 併設に伴う留意事項

- ① 双方の区域は、双方で責任をもって管理する。（区域分け、鍵の管理）
- ② お互いの教育活動の妨げにならないようにする。（相互の教育活動を優先する）
- ③ 合同の活動が可能なものについては、一緒に行う。
- ④ 備品・施設で必要なものは、双方で借り合う。（手続、責任）
- ⑤ 基本的に双方の区域への児童の通行の制限はない。ただし、教室への無断侵入はしない。